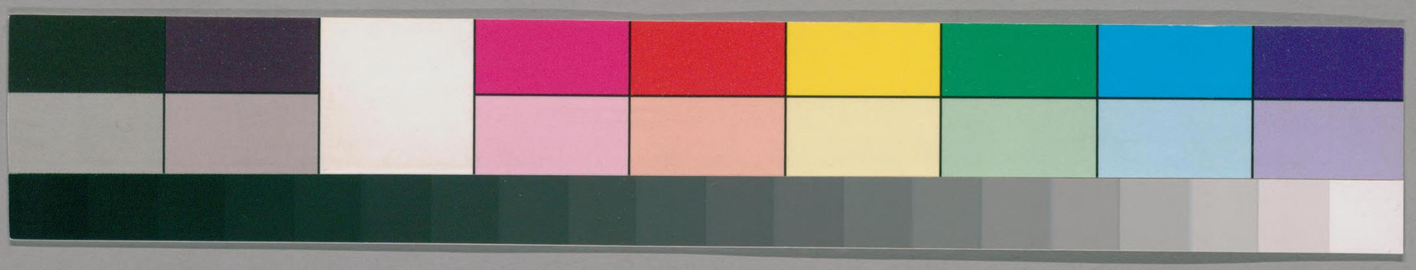


862
1

86

魯西亜国江漂民問答

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『魯西亜国江漂民問答』　請求記号 862-1

862-1
136

一 本文萬國之圖之赤道下有之八日月之順還スル筋ナリ晝ニ未ノ点ヨリ
ニル又故右赤道近キ国ヲハ大熱国ト知ルヘシ本ヨリ東西南北ト云フハナキヨトナリ
全体先キ○如是ノ分野ナレトモ晝記スルトキハ記シカタキ故ニ東西南北ヲ入クツ
本文日本ヨリ東三千里新世界亜墨利加洲ヲ云ル理ヲ以テ見ルトキハ東ハ非ス
日本ヨリ晝スルヨリ東方ト記スハ南北モ又同シ其余ハ準知スヘシ

一 歐羅巴洲ノ魯西亜国内ムスコヒヤスムスクトモ云是切支丹国ノ都ナトシ右ハ朱紙ヲ
以テ其外ヲ記赤色ヲ以テ分限ス

一 亞細亜スチイヤトモ云是韃靼天竺唐日本皆亜細亞ノ内ト知ヘシ黄色ヲ分ツスヘテノ
黄色ハ物ノ氣象ナキ一ヲ記ス

一 亜弗利加又利未亜トモ云青色以テ分ツホレハ東方ニ晝スル南北ニテ亜墨利加ハ西ニ

屬スル心三ノ九点三ノ見ルヘシ

一 南方ト記スル墨瓦臘尼加（メカノ）ト凡ソ日本ト記スル處ノ南ノ極リニテ北ト合スル北極ハ陰氷海ノ南ノ極陽ノ泥海ノ通路通船絶テ不限廣大ナル故ニ未測知モノトソ

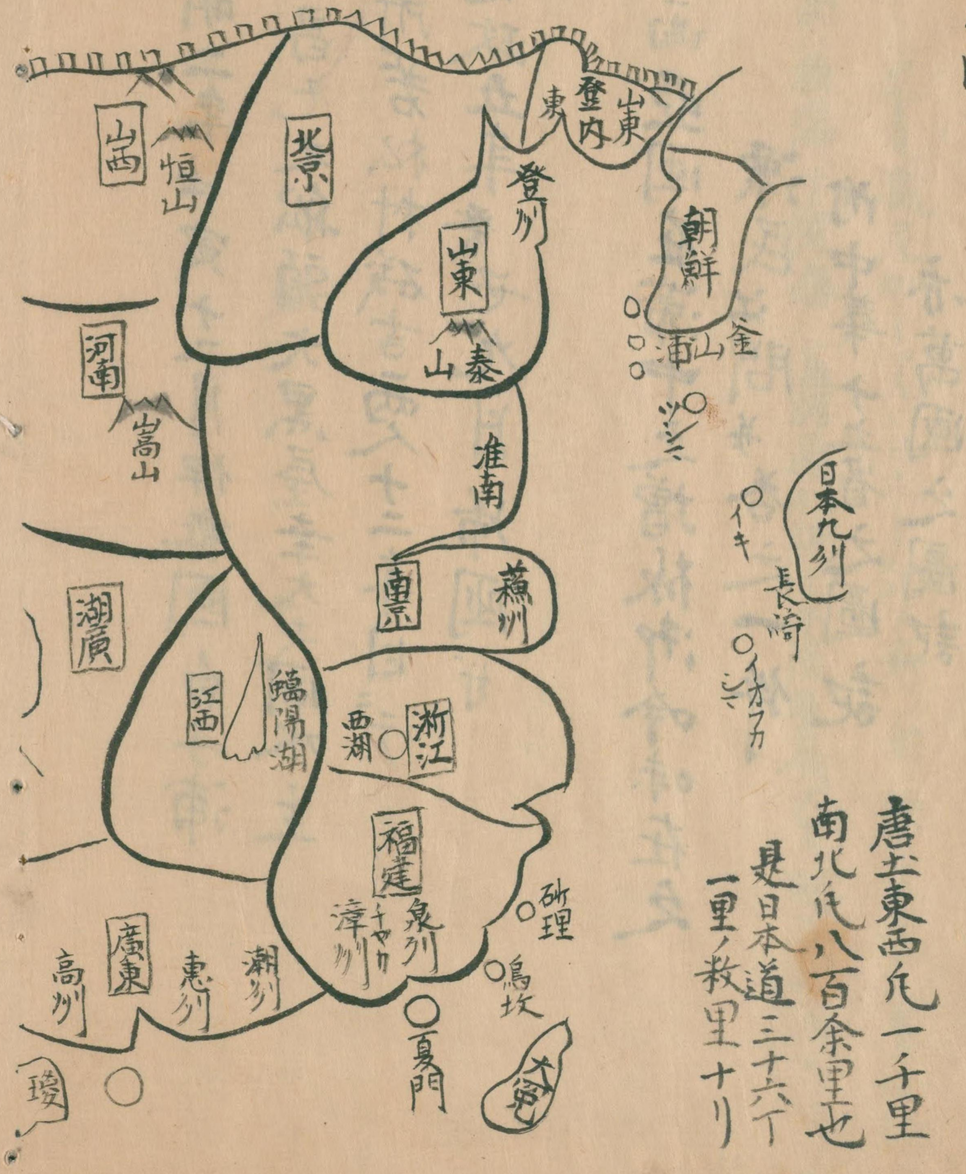
天明二年壬寅十二月伊勢國白子浦
神昌丸之船頭大黒屋幸太夫同水主
同所若松村磯吉兩人十二年目ニテ
寛政五年癸丑九月帰國ニ付

魯西亞國在滯中之增條御吟味在之
漂民江問并答之一件
附中華十五省之圖記
亦萬國之圖記

国立国会図書館　タイトル『魯西亜国江漂民問答』　請求記号 862-1
ガラス使用

中華十五省之圖

南京 北京
山東 山西
河南 陝西
湖廣 江西
浙江 福建
廣東 廣西



唐土東西凡一千里
南北凡八百余里也
是日本道三十六ケ
一里ノ数里ナリ

貴州 四川
雲南

右中華十五省ニテ
四百余州立之
廣大之事ヽ
大明大祖ノ時
十五省ニ分ケ各
国号相改ト
日本正保ノ比ニヤ

茫韃靼東西廣大洲流
外夷草干遏塞又數ヽ
華夷通商考又ハ萬国新話大略セリ

国立国会図書館　タイトル『魯西亜国江漂民問答』　請求記号 862-1
ガラス使用

地球萬國

世界之圖廻リ東西凡一萬六千里南北モ又同シ
是日本道三十六丁一里ノ計數ヲ以テナリ
東ノ方之亞墨利加之諸国之去リ日本ヲ凡三千里

天竺道唐土ヲ
諸国之里数ハ
皆六千一里之数
此圖之里数ハ
皆日本道三十
六千一里之積ヲ
以テ記ス其心得
シ次可見

開闢以来凡
六千余年ヲ
見タリ三千世界
ヲ日本ノ明應

一覽之圖

此圖微小故
諸国悉記
スル事アタハ
大略国ノ冠名ヲ折
ハカリ記ス

三ノ十世界ト云ハ
亞細亞洲
歐羅巴洲
利未亞洲
又亞弗利加洲ヲ
亦亞弗利加洲ト
云ヘリ
此洲ノ北亞墨利
加ト云ヲ看東洲
南北兩洲ヲ一洲
トナシ一世界ノ數
テ今ハ四世界ト云
南極ノ下ニ至テハ
廣大ニテ泥海ニ
今ニ至ル人是ナク
黒皮臘尼加ト云
名ノミ有テ至リシ
人ナシ紅毛人近年
三航ヒラヒテ新
オラシヤ又ハノフ
キヤヤト云国ヲ
メリトカヤ往々ニハ
亦世界トナルヘシ

国立国会図書館　タイトル『魯西亜国江漂民問答』　請求記号 862-1
ガラス使用

改上御物見之図

御白洲

御玄関

御式台

御供

越後守
越中守
主膳正
玄蕃頭

御側衆

御供

河内守
駿河守

甲斐守
永寿院

彦十郎
勘三郎

御広間

御次

御書院

御小座敷

御

国立国会図書館　タイトル『魯西亜国江漂民問答』　請求記号 862-1

漂民御尋之記

寛政八年丙辰九月十八日吹上の御和見よりあて出ル天明二年
壬寅十二月十三日艘列白子浦ヲお帆の秋三夜ゟ強風の
沖まて俄ゟ大風小吹放され同三年卯ノ七月九日ゟ流出尓ひ
魯西亞(ロシヤ)の属国アミシツカ(コ)ゟ地濱ゟ漸ク上陸カムサツカ
オホツカ(ヨコフツカ)イルコウツカ(ヨコフツカ)なと経歴して
政羅巴(ロハ)洲ある魯西亜国の都(へ)おゐて女帝小まさ(へてめさ)ーを
得ケ去年九月三日蝦夷(エソ)の子モロヽ(ロ)ゟ訴まて彼地の船ゟて
送り越されし神昌丸の船頭大黒屋幸太夫同水主若吉村
孫吉外ニ人と有 上陸御初見の正面小御簾をかけ御透見

ゟ座ゟ御免を蒙り右之方入側ゟ入座中ゟ柱半越中守加納
を江守孝恭守正列座之前ゟ跪礼を尽
漂流御尋筆頭評定所留役小野川周
列座先ニ年の中ゟ奉行ゟ尋ゟ次第
中川勘三郎安永元年卯廿七歳ニ
漂流仕候ゟ而ゟ白砂ゟ座ゟ右ゟ
是ゟ髷を眉ゟ掛ゟ袖ゟ着ゟ
桃文の振袖(きもの)萌黄(もえぎ)胴(どう)着ゟ

国立国会図書館　タイトル『魯西亜国江漂民問答』　請求記号 862-1
ガラス使用

一同ニ手ヲ左ノ肘ヲ手ニテ引ク而シテ右ノ手ニテ
漆ヲ付ケ其ノ四辺ヨリ内ヘ合セ其ノ両ノ端ヲ
相ヒ重ネ其ノ上ヲ白布ヲ以テ巻キ其ノ上ヲ
腥ノ如クニ小ク切リ其ノ中ニ魚ノ肉ヲ入レ
魚ヲ手ニ小刀ヲ以テ其ノ上ヲ巻キ又魚ヲ入レ
ハ今ノ鮓ノ如キモノ是ノ如ク二三寸小魚ヲ入レ
終ノ如キモノ是ノ如ク二三寸小魚ヲ入レ
終ヘ終ヘ終ヘ

ト病ニ死ス其服ヲ麻ノ水ニ充テ仕ル法ヨリ魯西亜ノ加比丹
宮名紅毛小ヨリ之ニテモ才シホイチヤヲ
連渡ラレ夫ヨリイルコウツカヨリ北ヘ
越ヘキヨシヲ命ジ其ノ郡主仕ヘヨキ表ヲ
服中渡リテ官行仕ヘキヨシ命ジ
ラレ此ノ頃ヨリ石ノ如ク堅クナリ
候ノ如ク解ケヨキ乾ヲ
此ノ方ニ乳酪ヨリ肉桂ノ末ヲ
着ヲ染ヲ法ノ
左ノ如ニヤ右ヲ染ヲ

治療法ヲ教ヘ焼酒ヲ浸シ未締ヲ切口ヲ包ミ療
治仕ル薬ヲ病ニ着ケヨキ事ヲ
ヘヨリ此ノ薬ヲ病ニ着ケヨキ事ヲ
ホノ如ク死ス者多ク病ニ着ケヨキ事ヲ
治ヘヨリ此ノ一日小銅ヲ打銅ヲ
治ヘヨリ此ノ一日ノ雑費十分ヲ
小ク然ヒ其ノ如ニ
左地代等ヲ
ヨリテモ此ノ後ヨリ
ヲモヲ
仕ル病ヲ
国立国会図書館　タイトル『魯西亜国江漂民問答』　請求記号 862-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『魯西亜国江漂民問答』　請求記号 862-1

ガラス使用

を一ツ〻〻ゟ出ス也〻〻ゟ又〻〻ゟ出ス仕方未タ多ク述ル能ハス只其ノ大略ヲ記スルニ止ムヘシ

一 同城樓ノ上ニ大ナル自鳴鐘(トケイ)アリ其ノ大サ高サ凡ソ二丈餘ノ大キサナリ

一 同城門ノ上ニ魯西亜(ベトロ)ノ帝伯ノ妻像ノ像立チ左右ニ及ヒ其ノ前ニ伯ノ孫ノ像ヲ置キ又別ニ一ツノ靈屋(タマヤ)ヲ拵ヘ安置仕リ其ノ屋ノ四隅ニ大ナル磁石ヲ掛ケ置キ又其ノ大サ凡ソ二丈餘ニシテ四面ニ仕切リ箱ヲ入レ物ヲ納(イレ)タリ其ノ箱ノ底ニ一挺ツヽ吸針(ヒキバリ)ヲ置キ又其ノ箱ノ服ノ上ニ掛ケ置キ螺施(ネヂ)ヲ捩(ネヂ)リ込ミ吸針ヲ動カシ其ノ箱ノ底ニ一度ツヽ四面ノ定リ一度ツヽ皆黄

目ノ差サノ如ク地ノ方ヲ指ス故ニ船ヲ走ラスル時ハ此ノ針ヲ見テ方角ヲ定ムルナリ

一 同所ノ城ノ内ニ大ナル鐘ヲ釣リ下ケ其ノ鐘ノ形ハ釣鐘ノ如ク吸ヒ口ハ開キ居ル其ノ鐘ノ内ニ一ツノ鐘ノ撞木(ツキギ)ヲ入レ作向ヒ時ムスクワ小大ノ矢ヲ表ス時ハ其ノ矢ノ数ヲ撞キ又大ナル矢ヲ表ス時ハ其ノ矢ノ数ヲ撞キ又近ヒノ方ヲ指ス矢ヲ撞キ又ハ其ノ

一和蘭ことに外科大く脩（コデ）逸にして解水（ケスイ）術（ヘルベルウタ）ニ至ては
小（ヲサキ）神のごとし其外諸術ことごとく精妙の
一なべて三州は地形（ヒラ）く山少く海多く
雲はるるより千里一碧（ヘキ）雨ふるより久しく
不止（ヤマ）ことなし水晶（ギヤマン）ガラスの大なるもの
世に天火（テンカ）ありて落雷（ラクライ）の災（ワザハヒ）なし
一同民家（ミンカ）整斉（セイサイ）古（イニシヘ）より然（シカ）り
洪炮（ホンポウ）整斉（セイサイ）住（スマヒ）ことごとく初住（ショジウ）のごとし
ゆえに侍（サムライ）の称（ショウ）ありて足（アシ）のごとき粗（アラ）と雖（イヘ）ども
おろそかの地（チ）ありよって獄（ゴク）吏（リ）の称（ショウ）なし
一同民家（ミンカ）整斉（セイサイ）古（イニシヘ）より然（シカ）り 昔（ムカシ）より
洪炮（ホンポウ）整斉（セイサイ）住（スマヒ）ことごとく初住（ショジウ）のごとし
ゆえに侍（サムライ）の称（ショウ）ありて足（アシ）のごとき粗（アラ）と雖（イヘ）ども
おろそかの地（チ）ありよって獄（ゴク）吏（リ）の称（ショウ）なし

如（ゴト）し等（ラ）の名（ナ）を極（キハ）めて自行（ジギヤウ）仕（ツカマツ）ることあり
一同老年（ロウネン）これを人（ヒト）の仕末（シマツ）の終（ヲハ）りとなす
ゆえに死（シ）を悪（ニク）むこと甚（ハナハ）だ遠（トホ）く喜（ヨロコ）んで死（シ）を送（オク）り車（クルマ）に乗（ノ）せ勝（カチ）ほこり住（スマヒ）りて之（コレ）を迎（ムカ）ふ
三年（サンネン）ありて棄（ステ）ることあり初（ハジメ）て老（ロウ）年（ネン）を問（トヒ）
棄（ステ）ることなし其（ソノ）仕（ツカマツ）ること又甚（ハナハ）だ手厚（テアツ）し
車（クルマ）の左（ヒダリ）右（ミギ）に旗（ハタ）を立（タテ）ることあり
一同土（ド）方（ホウ）を首（カシラ）に掛（カケ）ることなし
ただ二（ニ）ツの世帯（セタイ）より揚（アガ）りし時（トキ）ニ方（ホウ）ニ人（ニン）の像（ゾウ）を描（エガ）かけしハンケチアリ
抱（ダ）ら行（ユク）ニ方（ホウ）ハ周（シウ）祖伯（ベドロ）多禄（ロ）帝（テイ）の妻（ツマ）
ヲカテリナの肖像（セウゾウ）なり其（ソノ）ニ方（ホウ）ハ世帯（セタイ）より揚（アガ）りし時（トキ）ニ方（ホウ）ニ人（ニン）の像（ゾウ）又行（ユク）
ヲカテリナの肖像（セウゾウ）なり其（ソノ）ニ方（ホウ）ハ世帯（セタイ）より揚（アガ）りし時（トキ）ニ方（ホウ）ニ人（ニン）の像（ゾウ）又行（ユク）

国立国会図書館　タイトル『魯西亜国江漂民問答』　請求記号 862-1
ガラス使用

右ハ魯西亞國中ノ方ヘ參ル道路ノ模略ノ圖ニ取扱ヒ候ニ付
別紙ニ仕立差上候ニ付テハ御取調ノ上御下ケ渡シ相成度
此段相伺候以上

一　同國ニテ人物ノ服飾ハ如何ニ候哉

答　男女トモ上ハ羅紗ヲ以テ製シ下ハ木綿ヲ以テ製ス
男子ハ髭ヲ剃ラス髪ヲ剃ル女子ハ髪ヲ剃ラス髭ヲ剃ル
男女トモ冠ヲ戴ク

一　言語ハ如何ニ候哉

答　言語ハ一ツニシテ數種ノ別ナシ

一　海上ニテ風波ノ難ニ逢ヒ船ヲ破リ人ヲ損スルノ患ヒ
如何ニ候哉

答　風波ノ難ニ逢ヒ船ヲ破リ人ヲ損スルノ患ヒ
多シ

一　同國ニテ人ヲ殺シ或ハ盜ヲ犯シ候ニ付テハ如何ナル
刑ニ處セラルヽ哉

答　盜ヲ犯シ人ヲ殺ス者ハ老母妻子兄弟ヲモ共ニ
死刑ニ處ス然レトモ其情ヲ察シ減刑ニ處スルノ
コトアリ

一　同國ニテ人ヲ殺シ或ハ盜ヲ犯シ候ニ付テ罪ニ處セラ
ルヽ者ハ如何ナル刑ニ處セラルヽ哉

答　盜ヲ犯シ人ヲ殺ス者ハ老母妻子兄弟ヲモ共ニ
死刑ニ處ス然レトモ其情ヲ察シ減刑ニ處スルノ
コトアリ

一　同國ニテ人ヲ殺シ或ハ盜ヲ犯シ候ニ付テハ如何ナル

一 日本の小沢り通信を送り渡す世界
交易と成と元結なの女子ども帰ても帰
元〳〵中会ら年ほ成帝よりこ招接す史ら元年ほ会
たる役人のお与えて与ら与ひる元年ほ
一 彼地にて耶蘇宗門ほ入改宗役ひ年ほ
匂て雪を吐キ土ら石ら改ら年ほ匂物ら
活をひ年又ら 芸御等ら通名を
おえら小児年表ら名を年ら年ら大
小児を入ら度役ひ上ら名ら頭ら
一 同宗つよ入帝ほ八ら拒成ら又ら
なすきる年ほ芸帝ら

一 京通船ら到不ら右行方ら来ら
船ら帝ほ右大船ら日先ら信よ
一 十天宮よ役ひほ初とそら成又ら
芸ら家ら小入口の上よ掛ケ人ら
ら年ほ俳十天宮よ八宮先ほ重度ら
初ら人の宅人来ら与ら年ら
人ら拒接を住ら年ら
権ま人拝住ら宮ら
帰ち天のまを年ほ
一 同府よ吹ほとなら芸れべナ元ボル入出ら与ら張中万場

国立国会図書館　タイトル『魯西亜国江漂民問答』　請求記号 862-1
ガラス使用

一 病仕候ものに、きり口より差入物を師匠並に取扱候もの見知候ものを撰み仕り出候事。

一 京かまもと和佐田たをりの上菓子秤出候事。

一 たをやかなる手業を以、菊水吹よせ山桜もやく(ヤク)の如き細工物のみ差入候事。

一 異形の細工差入候ものは、一応取調の上差出候事。

一 同藩の剣法にて又なく言語を以て申(サル)ものに候えば、其和佐田芳山と相撲をとらせ、腸(ハラワタ)の交(マジ)わりを結ばせ候事。

一 同藩にて松杉の枝すべて腸(ハラワタ)の交(マジ)わりを結ばせ候事。

一 同藩にて指引(ゆびきり)と申(サル)ものに候えば、其和佐田芳山と相撲をとらせ、

実敬公をまのあたり拝し奉るごとく感涙
まことにかたく再見も存ぜざりしに
是程恐悦を後の語草なれ

一 同じき年中旬より春大雨春中雷
初と引き続き殿舎卯酉を奏ずる
鼓の如く小休止雷卯をもって今暮
つて雷雨の即の風味も亦是等也

一 同ムスクリ小石落ちて死ぬ
商人数傷を負ひ仕来たり

一 同彼地も日本の事となり若く
五ヶ年の間に日本の国名をも知ら
ざる者なく日本の事を書物に
もなき事の日本の事を書物に仕
中川湾停泊中小舟にて往来
中川湾停泊の諸侯の役人
彼地にて官医の如きは諸侯
多く官医の如きは諸侯
流川にて死亡の者多く
一 同都の人皆彼国の法を不
仕候処天命背り難きの
仕候処天命背り難きの

私共隣國之風俗ニ差違仕候儀ハ
通ニ私共仕ル紅毛人江たよりなく候ハヽ
本邦ニ於ル魯西亜ノ方へ送り遣シ
魯西亜ノ地ニて被送越候ハヽ
仰被越之通ニ可仕候ハヽ
それハ被申聞候ハヽ
ヤハリ紅毛人ニ被下候ハヽ
仰之事ニ候

一 イルコウツカ ニて朝鮮人ニ逢唐人ニも又ハ北京の
唐人之由ニ

一 冬中ハ穢小家ニ氷ノ上ニて大キなる火ヲ焚
つゝそこニ寝ル事ニ候

一 ベチエルボル 小嵐ニ成候ハヽ
ニこゝニ泊ニ候事ニ候

一 當今ノ世帝ニて要ヲといふ
太子ハ ハウルベトロイチ 年三十九
パウルイチ 年十六 又次ハ
年十四歳ニて候

右体之問答ニ二人の漂民ハ

862
1

侍臣の宿より帰りね昇平大和の
清代よ出セ一市男通よ住ケ事
と見ケ寸も去ままて巳ま少住へ事ゆ稀ハとて
柄みゝ水筆とゐていそくよ汗ゐるゆ之

侍醫法眼桂川甫周国瑞　誌壽
寛政七乙卯林穉中九日写之速水源長詩

国立国会図書館　タイトル『魯西亜国江漂民問答』　請求記号 862-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『魯西亜国江漂民問答』　請求記号 862-1

ガラス使用